

亀井 哲也 ゼミ

教員の研究関心領域

文化人類学、博物館学。物質文化とそれに関わる民族意識、伝統といったことに関心をもっています。小さなビーズの玉から住まいまで、人間の暮らしに関わる「もの」であれば、すべて研究対象となりえます。観光や、ユネスコの世界遺産、そして文化遺産保護をめぐる諸問題も視野に入れつつ研究しています。主な研究地域は南部アフリカ、とくに南アフリカ共和国ですが、イタリア、トルコでも調査をしました。

4年までのテーマ・方針・内容

皆さんが関心を持った「もの」にまつわるテーマに基づいて、理解を深めていきます。たとえば、ひとつの「もの」をテーマとしても、その「もの」の記述や分類だけで理解できるものではなく、その「もの」を手がかりとして、それを作り、使う人びとの文化や社会を明らかにすることが理解につながります。実際に「もの」を見て、触って、使ってみた上で、文献や聞き取りで情報を補強し、論文へと昇華する、そんなプロセスをイメージしてください。

卒業論文のタイトル例

これから皆さんと、この欄を埋めるべく、勉強していきましょう。

成績評価 基準・方法

ゼミへの参加態度、課題や発表の成果を評価の対象とします。

自己紹介 こんな学生を歓迎

新任です。
20年ほど博物館の学芸員をつとめ、文化人類学的思考の「もの」による表象を実践してきました。これまでは、楽しく学べる博物館が理想でしたので、これからは、楽しく学べるゼミが理想となるはずですが、楽しいばかりでなく、「学び」の場であることは、肝に銘じてください。
博物館学芸員資格を取得したいという方、大歓迎です。
新しいゼミです。一緒に試行錯誤しながら、これからの道筋をつけていきましょう。

演習Ⅰ テーマ：「もの」をみる

内 容 スケジュール

「もの」が「ひと」を意識づけ、互いの「こころ」を結びつける力をもつことを理解する。
「もの」を理解するに手助けとなる文献を、ともに読み解いていきます。

その他

演習Ⅱ テーマ：「もの」をしる

内 容 スケジュール

「もの」を良く知るために、文献、聞き取り調査を実践する。
あつかう「もの」に応じた調査・研究方法を見極めていきます。

その他

演習Ⅲ テーマ：「もの」をかく

内 容 スケジュール

「もの」と「もの」にまつわるさまざまな出来事を、記述する。
2年次、3年次の成果を論理的にまとめ、卒論とする。

その他